

東アジアの経済統合が格差を縮めるか

プログラム

日時： 2008年12月6日（土）14:30～17:30 その後懇親会
会場： 東京国際フォーラムガラス棟G402会議
主催： 関口グローバル研究会（SGRA：セグラ）
共催： （財）渥美国際交流奨学財団

フォーラムの趣旨

WTOが進めている多国間自由貿易交渉が行き詰まり、2カ国間自由貿易協定（FTA）への政策転換の動きが本格化している。しかし、これらの協定が複雑に絡み合い自由化を妨げる、いわゆる「スパゲッティ・ボール現象」が懸念される。今後、FTAはどの方向に進むべきか、その課題と留意点を考察し、東アジアの発展を展望したい。

当フォーラムでは以下の議論を提起したい。SGRA独自の研究調査によると、東南アジア域内における産業構造が変わり、国家間の格差が広がっている。しかも、国家間の格差が国内格差にも連動するというダブル・パンチ現象が引き起こされている。この背景には日本（政府+企業）の東南アジア戦略も大きく関わっている。

1993年に発行された世界銀行の「東アジア奇跡」では日本を含む東アジア経済の目覚ましい発展に注目した。当研究チームも、成長と分配が同時に進む発展モデルを「共有型成長」（SHARED GROWTH）と名づけた。いうまでもなく、この発展は20世紀後半の日本と東アジアの経験であり、その成長における日本の役割は極めて重要であった。経済協力を通じ成長と分配が共に促進される発展を東アジアで再現するために、何が必要か。

東アジア地域の経済統合は「共有型成長」を再現し、国際、国内における格差を縮めることができるのか。このフォーラムを通して、東アジアの経済統合への様々なビジョンを提示し、域内FTA戦略の形成に少しでも貢献できれば幸いである。

14:30-14:40

総合司会： 李鋼哲（北陸大学教授、SGRA研究員）

開会挨拶： 今西淳子（SGRA代表、渥美国際交流奨学財団常務理事）

<基調講演>

FTAで経済関係が深まる日本と東南アジア

東 茂 樹

西南学院大学経済学部教授

14:40-15:25

<発表要旨>

日本はここ数年、二国間あるいは地域の自由貿易協定（FTA）を推進する戦略をとっている。FTAの締結により海外から、熱帯果実や食肉、魚介類など農水産物の輸入が増加し、看護師や介護福祉士など日本で働く外国人も増えることになる。また日本から、電機や鉄鋼、自動車製品など工業製品の輸出が増加して、日本企業の海外投資もさらなる拡大に向かおう。FTA締結相手国との経済面における相互依存関係は深まって、東アジア地域共同体構築へ

	<p>の一步となるかもしれない。</p> <p>F T Aは締結にともない、必ず利害関係者を生じさせることに注意を払う必要がある。貿易の自由化により競争が進めば、比較優位のある産業は輸出を拡大する一方で、比較優位のない産業は淘汰あるいは事業転換に追い込まれる。また消費者にとって、良質な輸入品・サービスの価格低下は、生活に良い影響をもたらす。しかし発展途上国では、製薬特許などの知的財産権保護により、消費者の負担が増す場合もある。F T A実施により影響を被る関係者に対し政府は補償措置を導入して、格差の拡大を防ぐことが喫緊の課題となっている。</p>
15:25-16:00	<p style="text-align: center;">＜コメント：感想と問題提起＞</p> <p style="text-align: center;">平川 均（名古屋大学経済学研究科教授、S G R A顧問）（15分）</p> <p style="text-align: center;">ド・マン・ホーン（桜美林大学経済経営学系講師）、ベトナム出身（10分）</p> <p style="text-align: center;">フェルディナンド・C・マキト（S G R A研究チーフ）、フィリピン出身（10分）</p>
16:00-16:10	休 憩
16:10-17:30	<p style="text-align: center;">＜パネルディスカッション＞</p> <p>パネリスト： 平川 均（司会）、東 茂樹、ド・マン・ホーン、フェルディナンド・C・マキト</p>
17:30-17:35	閉会挨拶： 嶋津忠廣（S G R A運営委員長）
17:45-19:30	懇 親 会：ロイヤルカフェテリア（東京国際フォーラム地下1階） （会費： S G R A賛助・特別会員 1000円、非会員 3000円）

講師・パネリスト略歴

■ 東 茂樹 ☆ Shigeki Higashi

1993年筑波大学大学院社会科学研究科博士課程単位取得退学（経済学専攻）。1989年10月～1992年2月文部省アジア諸国等派遣留学生として、タイ国チュラロンコン大学大学院経済学研究科に留学。1993年4月よりアジア経済研究所研究員、動向分析部、地域研究部、地域研究センター東南アジアI研究グループ副主任研究員などを経て、2007年4月より西南学院大学経済学部教授。

主要業績として、編著に『F T Aの政治経済学：アジア、ラテンアメリカ7カ国のF T A交渉』アジア経済研究所、2007年。共著に『タイの制度改革と企業再編』アジア経済研究所、2002年。共編著に『タイの経済政策：制度・組織・アクター』アジア経済研究所、2000年。英文ペーパーに、“The Policy Making Process in FTA Negotiations: A Case Study of Japanese Bilateral EPAs,” IDE Discussion Papers No.138, March 2008.

■ 平川 均 ☆ Hitoshi Hirakawa

1980年明治大学大学院経営学研究科博士課程単位取得退学。1996年京都大学博士（経済学）。1980年4月より長崎県立国際経済大学(現・長崎県立大学)経済学部講師、助教授、茨城大学人文学部教授、東京経済大学経済学部教授などを経て、2000年10月より名古屋大学経済学部附属国際経済政策研究センター教授。

著書に『N I E S—世界システムと開発』同文館出版、1992年。『からゆきさんと経済進出—世界経済のなかのシンガポール—日本関係史』(清水洋氏との共著)コモンズ、1998年4月。『第4世代工業化の政治経済

学』(佐藤元彦氏との共著)新評論、1998年5月、『東アジアのグローバル化と地域統合』(石川幸一氏らと共編著)ミネルヴァ書房、2007年5月、「鹿島守之助とパン・アジア主義」『経済科学』(名大)第55巻第4号、2008年3月など。

■ ド・マン・ホーン ☆ Do Manh Hong

1990年国民経済大学(ハノイ・ベトナム)卒業、2003年桜美林大学大学院国際関係学研究科より博士学位(学術)取得、1991-1995年 石油開拓コーポレーション、ハノイ文化大学・日越交流センターの非常勤講師、2004-2006年：日本学術振興会外国人特別研究員、2005年4月-現在：早稲田大学ベトナム総合研究所客員研究員、2008年4月-現在：桜美林大学総合研究機構講師(開発経済学)。主要業績：『中国-アセアンのFTAと東アジア経済への影響』(共、文眞堂、pp.203-227)2007年、*Human Beliefs and Values in Striding Asia*、(共、明石書店、pp.99-116、英語)、2006年、Gop Vao Doi Moi [ベトナムの経済革新のため、ベトナム語] (共、Saigon Economic Times Publisher、pp.101-130)、2006年。

■ フェルディナンド・C・マキト☆ Ferdinand C. Maquito

SGRA運営委員、SGRA「グローバル化と日本の独自性」研究チームチーフ。フィリピン大学機械工学部学士、Center for Research and Communication(現アジア太平洋大学)産業経済学修士、東京大学博士(経済学)、テンプル大学ジャパン講師。現在のフィリピンについての研究：自動車産業、船舶産業、地方・都市の貧困問題 (共通のテーマ：共有型成長)。

■ 李 鋼哲(リ・こうてつ) ☆ Li Gangzhe

1985年中央民族学院(中国)哲学科卒業。91年来日、立教大学経済学部博士課程修了。東北アジア地域経済を専門に政策研究に従事し、東京財団、名古屋大学などで研究、総合研究開発機構(NIRA)主任研究員を経て、現在、北陸大学教授。日中韓3カ国を舞台に国際的な研究交流活動の架け橋の役割を果たしている。SGRA研究員。著書に『東アジア共同体に向けてー新しいアジア人意識の確立』(2005日本講演)、その他論文やコラム多数。

■ SGRAとは

SGRAは、世界各国から渡日し長い留学生活を経て日本の大学院から博士号を取得した知日派外国人研究者が中心となって、個人や組織がグローバル化に立ちむかうための方針や戦略をたてる時に役立つような研究、問題解決の提言を行い、その成果をフォーラム、レポート、ホームページ等の方法で、広く社会に発信しています。研究テーマごとに、多分野多国籍の研究者が研究チームを編成し、広汎な知恵とネットワークを結集して、多面的なデータから分析・考察して研究を行います。SGRAは、ある一定の専門家ではなく、広く社会全般を対象に、幅広い研究領域を包括した国際的かつ学際的な活動を狙いとしています。良き地球市民の実現に貢献することがSGRAの基本的な目標です。

■ SGRAかわらばん無料購読のお誘い

SGRAフォーラム等のお知らせと、世界各地からのSGRA会員のエッセイを、毎週2回(火・金)、電子メールで配信しています。SGRAかわらばんは、どなたにも無料で購読いただけます。購読ご希望の方は、SGRA事務局(sgra.office@aisf.or.jp)宛てメールアドレスをお知らせください。